

子ども・子育て支援に関する ヒアリング・ワークショップの実施報告④

【ヒアリング・ワークショップ実施状況】

実施日	対 象	対象 (参加) 人数	場 所	備 考
10月27日	マタニティセミナー参加者	27人	桑名市中央保健センター	【第3回会議にて報告】
10月29日	高校生（桑名北高校「わくわくコミュニケーション」を選択している2年生）	35人	桑名市子ども・子育て 応援センター「キラキラ」	【第3回会議にて報告】
10月30日	高校生（桑名北高校「わくわくコミュニケーション」を選択している2年生）	33人	桑名市子ども・子育て 応援センター「ぼかぼか」	柴田委員、横山委員参加 【第3回会議にて報告】
11月11日	中学生（多度中学校2年生の女子バレー部員）	7人	多度中学校	【第3回会議にて報告】
11月12日	中学生（陽和中学校1年生の男子テニス部員）	6人	陽和中学校	【第3回会議にて報告】
11月14日	「桑名子ども・子育て会議」 市民公募委員応募者	7人	桑名市子ども・子育て 応援センター「キラキラ」	【第3回会議にて報告】
11月26日	くわなわいわいワークショップ① （旧桑名地区ワークショップ）	7人	桑名市子ども・子育て 応援センター「キラキラ」	横山委員、渡部委員参加 【第4回会議にて報告】
11月29日	発達に支援の必要な子どもの保護者のヒアリング	8人	桑名市子ども・子育て 応援センター「キラキラ」	横山委員、濱内委員参加 【第4回会議にて報告】
12月1日	パパの子育て講座 & くわな パパトーク（父親座談会）	12人	桑名市子ども・子育て 応援センター「ぼかぼか」	濱内委員参加 【第4回会議にて報告】
12月2日	くわなわいわいワークショップ② （多度地区ワークショップ）	10人	多度すこやかセンター	伊藤（香）委員参加 【第4回会議にて報告】

実施日	対 象	対象 (参加) 人数	場 所	備 考
11月7日～ 12月6日	子育て中の外国人のヒアリング	12人	公立保育所等を通じてヒアリング	【第4回会議にて報告】
11月8日～ 12月6日	一人親家庭の保護者のヒアリング	24人	公立保育所等を通じてヒアリング	【第4回会議にて報告】
12月19日 ～1月22日	幼稚園教諭のヒアリング	各園 1～ 2人	各私立幼稚園、桑名市役所	
1月6日 ・17日	保育士のヒアリング	各園 1～ 2人	桑名市役所	
1月25日	くわなわいわいワークショップ③ (長島地区ワークショップ)	11人	長島地域子育て支援センター	渡部委員参加

1 幼稚園教諭

日 時：【私立】平成25年①12月19日／②12月20日／③12月24日／
平成26年④1月22日

【公立】平成26年1月7日

場 所：【私立】①くわな幼稚園／②津田（桑名・大山田）幼稚園／③コスモス幼稚園／④
マリア・モンテッソーリ幼稚園

【公立】市役所

- ・各幼稚園の教諭に、あらかじめヒアリングシートに記入してもらい、私立は各園に訪問し、公立は市役所にて、ヒアリングを行った。
- ・ヒアリングでは、「園児の育ちを通して感じること」、「園児の家庭環境等について感じること」、「保育における課題」、「子育てに必要な支援」などについて聞き取りを行った。

■園児の育ちを通して感じること

- 大人からの指示待ちで、日頃から自分で考える習慣ができていないように思う。
- メディアの影響が大きく、いろいろな言葉を知っている
- 子どもの世界ではゲームの話題が多くなっている
- 昔から受け継がれている遊びなどコマ回しなど昔からの遊びに対しては、子どもたちにとっては新鮮で、驚きを感じているようである
- 我慢することや人との関わりが苦手な子どもが増えてきている
- 大切にすべき習慣を身につけることより、教育的なニーズが高くなっているように感じる
- 年齢に応じた基本的な生活習慣を家庭で身に付けないまま入園し、箸の持ち方、おむつ卒業などは、園の先生の仕事と考えている親が多いように思う
- 経験が大切だと思う（自然、本物、地域との関わりなど）
- 祖父母がいる家庭といない家庭には、いろいろな面で違いがある。祖父母から学ぶことも多いと感じる
- 車の利用が多いためか、足腰が弱いような気がする。転んだ時に手をつかず、顔から落ちるなどケガをしやすい子どもが増えた
- 危険な遊具が取り外されたり、不審者情報があったりで、外で遊ぶ機会が少なくなっ

ている

- 給食を食べない子どもは、家では食べなかったら作り直すなどその場しのぎの対応をしているケースがある
- 野菜づくりなど非日常的な行事は有効である。野菜嫌いの子でも自分で収穫した野菜は食べる。親にとっても考えるきっかけとなる
- 全般的に人と関わる力が最近弱くなってきているが、毎日の遊びを通して、人と関わる力が育ってきたと感じている
- テレビ等で知識としてはたくさん持っているが、直接的な体験が少ない。砂場やごっこ遊びを通して、実体験を積むことで子どもたちは多くのことを学んでいっている
- 自発活動＝自ら遊んで活動することで、自分たちで考え、選び、表現することで、友達とのコミュニケーション能力を発達させられる
- 人と関わる力を育むにはトラブルも大事だが、子ども同士で話し合っ解決しているという姿が見られる。
- 成功体験を重ねて自信をつけ、意欲的になっていく姿や、試行錯誤しながら乗り越えようとしている姿を見るたびに、生きる力が育まれていると感じる
- 就園までに身につけておいてほしいと思う基本的な生活習慣が身につけていない子が年々増えている
- 約束やルールを守るのが苦手になってきている
- 先生と一緒に遊んでも、自分で遊びを見つける力が弱くなってきている
- 手先が不器用な子どもが増えている

■園児の家庭環境等について感じること

- 核家族化が進んでおり、旧市街と新興住宅地では若干違いはあるが、隣近所との関わりが少なくなっているように感じる
- 働く母親が増えている
- 子育て雑誌やインターネットの情報を基準に考えているので、成長や発育の個人差を大らかに受け止められていない
- 塾や英語やピアノなど習いごとをしている子どもが多くなっており、外遊びをあまりしていないようだ
- 「ずっとお家でも勉強だ」とつぶやく子どもがいる

- 保護者会はないが、親同士はよく交流しているように見受けられる。幼稚園がきっかけになれば良いと思う
- 両親ともに園の方針に理解があって、両親や祖父母が園行事にも積極的に参加する
- 教育に対して熱心な保護者が増えている。父親も参加することが増えている
- 少ない子どもを家族が大切に育てているのがわかる
- 祖父母も日常的に子育てに関わっている家庭があるが、祖父母が近くにいない、不安を抱えている家族もある
- 子ども同士のトラブルに保護者が介入しすぎたり、子どもが喧嘩をしても、自分の子はまったく悪くないと考える親が増えたように感じる
- 子育ての知識に乏しく、不安があっても頼れる所がない。種々の情報に振り回されてしまう母親が少なからずいる
- 保護者は、園で基本的な生活習慣を教えてもらうことが当たり前と考えている
- とても叱る親と、まったく叱らない親と両極端になっている
- 食生活の偏りがあり、早寝・早起き・朝ごはんの意識が薄いように感じる
- 子どもの嫌がることはしないため、しつけや教育を園にすべて任せる親もいる
- 基本的な生活習慣の重要性をあまり感じていないようだ
- ドロ遊びや虫取りなどは保護者自身に抵抗があるように感じる
- 保護者自身が気の合った仲間同士で交流し、お互いに悩みを共有してはいるようだが、そこから一歩抜け出すことはできにくいようだ
- 一人っ子が増えており、保護者が過剰に関わりすぎることもある
- 親はゲームを与えていることを深刻には考えていない
- 核家族増加中。同居していても祖父母の意見よりも、友人やインターネットのつながりを重視しているひともいる
- 街中で交通量が多く、不審者情報も多いので、子どもを安心して外で遊ばせられない環境にある。保護者が付き添って公園で遊ぶという形で活動範囲が限られている。元気に遊んで身体面を伸ばすのが難しい
- 近所に年齢の近い子どもがいない、いても既に園に通っている等で、同じような年齢の子どもと遊んだ経験のない子どもが入園してくるケースが増えている
- 核家族化など、周囲に心から頼れる人がおらず、子育てを一人で背負っている母親が増えている。中には精神的な病を患ったり、大人の都合に合わせて子どもまで夜型の

生活リズムになったりして、子どもにとってしんどい状況が生まれている

○保護者の輪から外れてしまうのが不安らしく、自分の子どもにかかる以上に熱心にいろいろな活動に取り組んでいる人もいる

■幼稚園の保育における課題とは？

○なかなか日常的に話す機会がないので、保護者との連携が課題である

○家族と共通理解のもと、一人ひとりに合った支援をする必要がある

○集団生活の中での子どもの姿が保護者に伝わらない。子どもと保護者の一対一の場合と違うことが理解してもらえない

○特別な支援が必要な子どもが増えてきているので、成長段階に応じた関わりが必要である。対応をするためには人手が必要

○相談するところがわからない人が多い。紹介しても一歩が踏み出せない場合が多い

○一番の相談相手は幼稚園だと思う

○障害に関する知識を得る必要がある

○送迎バス、延長保育など時間的な余裕がない

○公立の学校との連携が足りないと感じる。小学校との連携ということでは、言葉だけでは伝わらないので、実際に来てもらうといい。安心して送り出せる。交流会などの充実を望む

○近隣市町の小学校では、年長の先生を対象に授業参観を実施している。小学校に入ってから必要なことなどがわかるので、このように小学校へ行く機会があるといい

○安心して色々なことに取り組める環境の工夫

○少人数クラスでは、互いに刺激し合って育っていく機会に乏しいと思う

○園の先生に保護者を対象としたカウンセラーの役割が求められる

○特別な支援が必要な子、アレルギーの子など専門知識を学ぶ必要性が高まっている

○少人数が問題。集団における十分な育ちを保証できないことが最大の課題

○ニーズに合わせて、延長保育、預かり保育などが必要

○一人ひとりの育ちと家庭環境を見た上で、一人ひとりにあった関わりをしていくことが課題

○核家族化、少子化、不審者等で遊ぶ場まで限られるような社会状況で、子どもたちが人と関わることすら制限されてきているなか、地域の人や異年齢の子どもと積極的に

交流しながら人と関わる喜びや人への親しみを感じさせていくことも課題

- 5歳児が1年だけ通う園なので、1年間で子どもや保護者、家庭の状況を掴んで対応していくのは難しい。そのため保・幼・小の連携が必要
- 家庭教育の大切さを、園から保護者に発信していかなければいけない。

■現場の職員から見て、子育てに必要な支援とは？

- 核家族化が進んでいるので、幼稚園・保育園が子育て支援をやるべき。子どもに社会性を身につけるためと親のリフレッシュのために必要
- 長期の休みの自由登園保育や預かり保育が増えてきている
- 教育的な面と保育（預かり）のバランスが重要
- 保護者にとって相談できる環境が必要
- 相談機関の充実が必要（園内に相談窓口があるといい）
- 公平な支援という視点から、公私にかかわらず行きたい園に行けるような経済的な支援があるといい
- 地域の祖父母世代から知恵や経験を教えてもらえたり、子どもに対して悪いことは悪いと注意してもらえたりできると非常にいい
- 母親同士の友達づくり。母親同士が仲良くなれるという話を聞いて園を選ぶ保護者もいる。
- 子育ては大変だが、忙しい時期の楽しさを伝えていきたい
- 就園前の子どもと保護者を対象とした空き教室のサロンの開放もやってみたい。常駐の相談専門の職員がいると安心できると思う
- 専門の相談員、相談室があると、保護者の拠り所・支えになると思う。保育所との連携も密にし、継続した支援ができるようにしたい
- 預かり保育が必要
- 子どもが安心して遊べる場の確保・提供
- 支援センター利用者の既存グループに入れないので、よその支援センターに行っている人がいる。センター職員が親同士をつなぐような取り組みをしてほしい
- 保護者の自己肯定感アップも大事。子どもの頑張りとともに保護者の頑張りにも目を向けて、声をかけていく必要があると思う
- 幼稚園の保育時間の延長。幼稚園教育を受けさせたくても、保育時間や長期休暇中の

過ごし方がネックになって、幼稚園を諦めなければいけない人もいる

○子育て情報の提供、講演会があるといい

○園開放に来られない人には、民生委員、主任児童委員、保健センターから情報をもらえると声をかけに行けるので、他機関とのネットワークがあるといい

■その他

○大変な仕事だと思う。人間相手ですばらしい面はたくさんあるが、肉体労働でもある

○女性中心の社会なので、男性教諭が増えるといい

○若い人に続けてほしいと思う。早く辞めてしまう人が多い。自分の経験からうまくやれば両立が可能だとわかった

○市と私立幼稚園の関わりが希薄に感じる。就学前に必ず小学校の先生が園に来てほしい。連携が重要である

○保護者の安心のためにも公立小学校と園の交流会を持つべき

○公立の学校と私立の園の行事が重ならないよう早めに情報提供してほしい

○子ども医療費の先払い・返還システムはニーズに合っていない。完全無償化に変えるだけでも母親に対する大きな支援になる

○園と保護者が協力して子どもを育て、それで子どもが変わってきたのを保護者が理解できると、園の信頼につながる。保護者が実感できると自分の役割に気づき、家庭での子育てに前向きに関われるようになる

○以前に比べて、行事等への父親の参加率が高くなったが、実際の子育ては依然として母親中心が多いと感じる

○イクメンパパといわれている人でも、仕事で帰宅が夜10時以降というのが多いと思う

○桑名市に住みたいと思ってもらえるような子育て支援を！

2 保育園保育士

日 時：【私立】平成26年1月17日 【公立】平成26年1月6日

場 所：【私立・公立】市役所

- ・各保育園の保育士に、あらかじめヒアリングシートに記入してもらい、市役所にて集団でヒアリングを行った。
- ・ヒアリングでは、「園児の育ちを通して感じること」、「園児の家庭環境等について感じること」、「保育における課題」、「子育てに必要な支援」などについて聴き取りを行った。

■園児の育ちを通して感じること

- 自信がないせいか、自分でやってみようという気持ちが弱く自尊心の低さを感じることがある
- 年齢にあった気持ちのコントロールができず、友達関係が難しくなってしまうことが増えているように思う
- 疲れやすい、じっとしてられない、すぐに寝ころがる子どもが増えている
- 感動したり、遊びに熱中したり、もっと知りたい！もっとやりたい！という意欲的な子どもが少なくなっている
- 自発的・主体的に遊んだり体験したりすることが苦手になってきているのは、テレビやパソコンの影響があるのかも知れない
- 祖父母と同居の子どもの中には生活の時間的な余裕もあり気持ちにゆとりのある子がいる
- 家庭での子育て力が低下しているように思う
- 甘えたいのに十分に母親に甘えられていないためか、保育士に過剰に甘える園児も多くなっている
- 興味のあることには集中し持続して遊べる反面、そうでないことには取り組まないなど極端に違う
- インターネットやテレビによる情報を親が整理して子どもに与えていないため、善悪の判断がつかないまま、意味も分からず「死ね」とか「ヤバい」など不適切な言葉を使う子がいる
- 就労時間などの理由で親が忙しいため、家庭と協力して子育てができていかない

- 体力低下によって姿勢の悪い子が多いように思う
- 極端に大人びた子と幼い子の差が激しい
- 家庭の中で親との関わりだけで生活してきたせいか、人とのコミュニケーションがとりにくい子がいる
- 上手に自分の想いを伝えられない。大事なことを互いに言えないため、保護者も子どもも先生に依存している
- 落ち着き、集中力のない子が増えたように思う
- 自己中心的な子が多く、人の言うことを聞かない姿が見られる
- 手加減ができず、思い切り叩いたり、ぶつかったりする。ここまでやったら痛い、危ないの感覚がわからない子が増えた
- 転ぶときに手をつかず、顔から転ぶ子が増えた
- その場に應じたあいさつが上手くできない。
- 感情をどこにぶつけていいのかわからず、友達とのケンカの際にキってしまう子がいる

■園児の家庭環境等について感じること

- 子育てを知らないことにより、自分が昔叩かれて育った経験から自分の子どもを叩いて育ててしまう負の連鎖もある
- 保育士はプロだから全部やってくれると考える親もいる
- 明らかに子どもにとって好ましくないことでも、オロオロしてしまっても止められない。子どもを叱れない親が増えた
- 核家族が増えてきている。子育てがわからない保護者が増えてきているので、子どもの落ち着きの面で変わりつつあるのを感じている
- 母子家庭、父子家庭が増えている
- 親の就労時間が長くなるにつれ、生活が慌ただしくなり、子どもと向き合う時間が少ない家庭が増えてきている
- ひとり親率が高いが、その分祖父母との同居で補ってもらったり、保護者同士のつながりでフォローしてもらったりできている
- 子育て等で困ったときはインターネットで調べるので、人に相談したり聞いたりしない。そのため、子どももインターネットを使うのが当たり前の人もある

- ケータイ、ゲーム、テレビなど子どもがメディアに溢れた環境におり、人とのコミュニケーションがとれない家庭が増えている
- 親が子どもと一緒に遊んだり、共感したりすることが減っている
- 休日はどこかへ出掛けて、生活リズムが乱れるパターンが多い
- 思い切り体を動かして遊ぶ機会が減ってきている
- 子どもは保護者とのかわりを求めるが、保護者は仕事が忙しいためかわれない家庭がある。
- 基本的な生活習慣を園に頼りきり、任せきりで園と家とで協働して子育てしていくのが難しい。保育サービスの1つと考えている人がいる
- 子どもは親に甘やかされているが、甘えさせてもらえてないように感じる
- 親が子育てについて相談する場がない
- 仕事があるため、子どもの体調不良に対応しない、対応できない保護者がいる
- 習い事を始めるのは早いですが、子どもの心の育ちには重点を置くことが少なく心の育ちが心配
- 生活リズムが大人中心（朝早く夜遅い）のため、子どもの生活が不規則
- 子どもとの関わり方がわからないと言う保護者がふえた
- 子どもではなく「私はすごく頑張っている。私を褒めてほしい」と自分の話をしたがる人が多くなってきたように思う
- 核家族の増加、地域のコミュニティ力の低下によって子育てを継承できなくなり、育児の孤立化が目立つ
- 両親ともにフルタイムが多く、園で過ごす時間が長い子が多くなっている
- 両親フルタイムであっても家事や育児は母親に負担が集中するため、仕事・家事・育児で一杯一杯の母親もいる

■保育園の保育における課題とは？

- 相談できる人が周りにいない人もいるので、保育士がその役割を担っていく必要性を感じている
- 長時間保育・延長保育がほとんどなので、保護者と話をする時間を作るのが難しくなっている
- 園でやっている遊びの目的や将来の子どもの姿を見据え伝えながら、家庭での役割を

伝えることも大事である

- 個々の子どもの育ちを考え、保育内容の充実と保育士の資質の向上が課題
- 認定こども園設置に見据えて保・幼の保育内容の検討が必要
- 園開放、一時保育を安心して利用できるよう、気軽に相談できるよう、園を日頃から地域にオープンにできるといい
- 専門の先生に巡回の形でみてもらってアドバイスがもらえると、子どもにあった支援ができる。専門職と保育士の連携体制を構築したい
- 地域の子どもの数にあった園整備をしていかないと、必要な集団生活ができない
- 子どもだけではなく、親や地域をまき込んで支援していくのが園の仕事
- 保護者に助言できるような関係づくり、食物アレルギー等の専門知識など保育士の資質向上が必要
- 0～2歳の低年齢児が多いので、災害時の避難方法の確立が急務
- 保護者が安心して預けられるように保育士の資質向上が必要
- 保育士の人材確保と待遇改善が課題

■現場の職員から見て、子育てに必要な支援とは？

- 子育てがわからない時に気軽に相談できる場所が必要
- 家での楽しい過ごし方をアドバイスできるだけでも違う。園でやっている遊びや聞いている曲を紹介するのも良い
- 保護者の背景に配慮した精神的支援が必要
- 子どもの状況についての的確に説明できるよう、保育士の研修・勉強も必要
- 学童が学校から離れているため不安を感じている保護者もいる。学童が学校の近くにあるといい
- 家にこもっている人への支援は子育て支援センター、保健センター、主任児童委員など地域や関係機関との連携が重要
- おんぶ紐の活用など子育てに役立つ知識を伝えていくことも大事
- 受け入れることは簡単だが、親として何が必要かを教えていく基盤を皆が共通して持っている必要があると思う
- 一時保育や子育て支援センターを利用した人の中に精神疾患のある親や、障害のある子どもの保護者がいるので、関係機関へとつなぐなどフォローが必要

- 発達支援が必要な子どもが多いので、支援と相談機関の連携を切れ間なく続けていくことが課題
- 一時保育施設の充実。子育て支援センターの利用条件の拡大が必要
- 育児を始めとした相談全般。精神面のサポート体制
- 相談、遊びなどニーズにあわせたスペースの確保
- 保護者のカウンセラー的な相談専門の先生が園に常駐できるといい
- 家庭や保育園で少し支援が必要な子と保護者を支援する相談体制
- 親育てが必要。子育ての主役である親を園や地域がサポートするスタンスが理想
- 保護者同士が気持ちを分かり合えるような場づくり、親同士の交流の機会
- 病児・病後児保育の充実
- 親が子育てを楽しめるような支援
- 保育サービスの充実だけでなく、子育て中の保護者を支援する社会の雰囲気づくりも大事

■その他

- 行事には関心があって参加率が良い
- 平日の保育参観に夫婦で参加する人が増えた
- 朝、父親が送ってくる家庭が多くなってきた
- 保育士の待遇改善！労働環境改善！

3 くわなわいわいワークショップ③（長島地区）

日 時：平成26年1月25日

場 所：長島地域子育て支援センター

- ・市広報紙の掲載や幼稚園・保育所（園）等を通じた案内の配布等により参加者を募り、参加した11人にワークショップの形式でヒアリング調査を行った。
- ・ワークショップでは、「自己紹介」→「話し合い」→「振り返り」の進行手順で、自由に話し合った。

■就園前の子育てについて

- 双子の母親は閉じこもらざるを得ない。地域に出たくても出られない人への参加支援が必要。赤ちゃん訪問以降の訪問があると良い
- ボランティア等も含めて訪問、ちょっとした手助けができると良い
- 離乳食や子育てに関する知識を地域住民が教えてくれると良い
- 娘がまだ1歳なので、子育てに必死で余裕がない。離乳食講座に行きたくても子どもの機嫌が悪かったら行けない。身近に祖父母がいないので子どもを預けられない
- 引っ越してきた人は孤立しがち。声かけ・支援必要
- 3年前に越してきたが、出産してから友人が増えた
- 育児休暇中の母親は、社会から隔絶している感もある
- 支援センターの存在を知っていても、1人では行きにくいという人も多い。家に閉じこもっている人も多いと思う
- 支援センターは子どもを遊ばせるところかもしれないが、母親も誰かと喋りたい、知り合いになりたいと思いつながりながら来ている人も多い。支援センターで知人と会えるのがうれしい
- 支援センターで孤立してしまうと孤独感が倍増する。保護者同士をつなぐよう職員さんは心がけてほしい
- マイカルの近くには支援センターがたくさんあり、10分間講座などをやっているのどこかに行けば同じ年代の親子に会える。小さい子どもと母親への支援は結構充実しているように感じている
- 軽い気持ちでインターネットをみてしまうと、情報が氾濫していて何が本当なのかわ

からなくなる。

- 自分から情報を取りに行けるタイプの母親には今の桑名市は良いが、逆のタイプの母親には何らかの支援が必要
- 「すすすくだより」が支援センターに置いてあるが、行かない人は見えない。ホームページで見えることを知らない母親も見ることがないので、マイカルなどの日常生活範囲に置いてあればいいのと思う
- 子どもが未熟児だったので保健師さんが訪問してくれていたのが良かったが、支援センターに行くのに躊躇した。授乳感覚が短く、センターに授乳室があるのは行ってから知った。行くまでに時間はかかったが、職員さんが積極的に話しかけてくれたので安心して行くことができた

■子育て環境について

- 市内には施設があるが、桑部にはほとんどなく、朝日町や川越町の方が近いのでそっちに行っていた
- 公園が少なく、連れて行っても年齢にあった遊具がない。特に低年齢対象の安全なものがない。管理もできていないので雑草、虫がひどく、子どもが行きたがらない
- 子どもが自転車で集まれるような場所がほしい
- 地域の元気な高齢者に子どもを預かってもらう仕組みができないか。身近に元気な高齢者が多い
- 子どもの頃の食事は大事。働いていた時は朝・夕の食事に力を入れられなかったので、保育園の給食が子どもの栄養源だった。園や学校での食育に力を入れてほしい

■幼稚園・保育園について

- 保育園の定員がすぐにいっぱいになるので選択肢が少ない。3歳児を近隣の幼稚園で預けられると良い
- 桑部は幼稚園がなくなるので、保育園しか選択肢がない。幼稚園に行こうと思うと車で送っていくしかなく、地域の子どもと関わることなく小学校に入学することになる
- 私立幼稚園には送迎があり、逆に公立幼稚園は送迎がないから人気がないため、再編でなくなってしまうのはわかるが、幼稚園の保育時間が長くなれば行きたがる人も増える。希望としては近所の園に通えるのがベストだが、条件にあった園がない

○横浜市では保育園・幼稚園が連携した取組がされていた。桑名市でもできると良い

■学童保育について

○子どもが小学生にあがると延長保育がなく、学童保育も場所が不便等の理由で心配。

職場を変える必要が出てくるのか不安

○桑部は学童保育がないので不安

○伊曾島には学童がない。下校に1時間近くかかるため、学校と家との中間地点に学童があると、皆がそこで遊べる

○桑部は子どもが少ないので私立幼稚園が学童をしているが、その卒園児じゃないと利用できない。将来働くかわからない親は、必然的にその幼稚園に入園しなければならないので、桑部にも学童保育がほしい

○中部には学童があり、北部・伊曾島の保護者は学童をどうするか懸念している。一応コミュニティバスで通えるが、そうまでして通わせたくないとする親もあり、仕事を諦める人も多い

○交通機関に頼らず、歩いて行ける距離に学童があると良い

○学童は校内にあるのが1番いい。学童が学区に1つあっても学校から距離がある場合、誰が送っていくのか移動が心配

○小学校入学にあわせて仕事を辞める人もいるし、勤務先や就労形態を変えないといけない

○名古屋市はトワイライト制度があり、学校内に1室設けて学童より安くいつでも預けられるので導入してほしい

■子ども医療費について

○子ども医療費の償還払いが面倒。返金も世帯主の口座なので煩わしい。役所と医療機関がやり取りすれば市民は楽。事務コストも浮く

○診療明細のハガキがもったいない。後からハガキを出して入金してくれるくらいだったら、最初からタダにした方が良い

○子どもが小さいうちは、窓口で支払いをするのも大変

○窓口で支払う大変さは男性にはわからない

○名古屋は中学生まで窓口支払いがなく楽だった

■「振り返り」(ワークショップの感想等)

- 自分と同じ意見を持つ人が多く安心した。共有できてよかった。学童・医療費等改善すべきところはもっと意見を言っていけないのかなと感じた
- 悩みや考えを共感・共有できると力になる
- この場で人と話すことにプレッシャーもあった。一步を踏み出すのに勇気がいるので、敷居が低いと良い
- 子育て中は大人との会話が少なくなる。母親であっても、一人の大人として過ごせる時間が大事
- 今日ここで意見を言ったことで、桑名の子育て支援が良くなるといい。他の人の意見で先のことを想像したり、準備したりしておくことを勉強できた
- 先輩ママの話聞いて、自分の行く末を考えるきっかけになった。色々共有できてよかった
- 園は家に近ければいいと考えていたが、もう少し違いを調べてみようと思った
- 昔はそれ程考えなくても子育てができた。今の若い人はいろいろ考えて、心配する必要があることが多くて大変
- 意見を市の施策に活かしてもらえればと思う。桑名市が子育てしやすくなることを期待している。参加して良かった
- 友達感覚で話ができ良かった。こういう機会がたくさんあれば、話をしたい人が多く参加すると思う。次の機会のために今日の感想を友人に伝えたい

■その他

- 育児休暇取得前は、朝7時半に保育所に預けて、夜6時頃に迎えに行く生活をしていたので会話が少なかったが、今は絵本を読んだり、保育園で何があったかを聞けたり、自分の心に余裕を持っている
- 娘が生まれてから名古屋、横浜と住んで、桑名市で3都市目だが、色々比較すると、桑名市の子育て支援は充実していると感じているが、色々思うこともあるので市政に活かしてほしい